

## えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から

⑩

2021.10.20  
17x

県内で最古の出土記録がある考古資料は、今回紹介する西予市宇和町久枝大窪台出土の広形銅矛である。出土したのは江戸時代前期の1668(寛文8)年。その記録としては、江戸時代の地誌「宇和旧記」1668(天和元)年成立、宇和島

1(天和元)年成立、宇和島 1(天和元)年成立、宇和島 1(天和元)年成立、宇和島

## 西予・宇和の広形銅矛

## 江戸時代出土県内最古

藩庁御用場記録の抄録「宗利公御代記録書抜」、西予市宇和町日吉神社所蔵の「久枝村山王宮再興記棟札」

11729(享保14)年銘

また「宗利公御代記録書抜」には、寛文8年3月に久枝村の山畑で掘り出した

寛文8年正月に久枝村の長七という人物が大窪台で矛を5本掘り出したが、かつて近くにあったという山王社の「神体」とい、祠(ほ

唐金(銅矛)8本を神宮寺に差し出し、農民に米一俵が渡されたことが記されている。「文化財」という概念が存在しない時代に、銅矛の発見者に米一俵という

寛文8年正月に久枝村の長七という人物が大窪台で矛を5本掘り出したが、かつて近くに

唐金(銅矛)8本を神宮寺に差し出し、農民に米一俵が渡されたことが記されている。「文化財」という概念が存在しない時代に、銅矛の発見者に米一俵という

寛文8年正月に久枝村の長七という人物が大窪台で矛を5本掘り出したが、かつて近くに

唐金(銅矛)8本を神宮寺に差し出し、農民に米一俵が渡されたことが記されている。「文化財」という概念が存在しない時代に、銅矛の発見者に米一俵という

寛文8年正月に久枝村の長七という人物が大窪台で矛を5本掘り出したが、かつて近くに

唐金(銅矛)8本を神宮寺に差し出し、農民に米一俵が渡されたことが記されている。「文化財」という概念が存在しない時代に、銅矛の発見者に米一俵という

寛文8年正月に久枝村の長七という人物が大窪台で矛を5本掘り出したが、かつて近くに

唐金(銅矛)8本を神宮寺に差し出し、農民に米一俵が渡されたことが記されている。「文化財」という概念が存在しない時代に、銅矛の発見者に米一俵という

寛文8年正月に久枝村の長七という人物が大窪台で矛を5本掘り出したが、かつて近くに

唐金(銅矛)8本を神宮寺に差し出し、農民に米一俵が渡されたことが記されている。「文化財」という概念が存在しない時代に、銅矛の発見者に米一俵という

寛文8年正月に久枝村の長七という人物が大窪台で矛を5本掘り出したが、かつて近くに

唐金(銅矛)8本を神宮寺に差し出し、農民に米一俵が渡されたことが記されている。「文化財」という概念が存在しない時代に、銅矛の発見者に米一俵という



県内最古の出土記録のある広形銅矛(複製)。

全長89・5センチ。館蔵

褒賞を与えていることは注目し、当時の人々の関心の高さがうかがえる。

本資料は歴史展示室1に展示しているが、テーマ展「東予と南予の弥生文化と青銅器」開催に際し、実物の借用を所蔵者にご快諾いただき、日吉神社から棟札もお借りすることで、「江戸時代の一大発見」の経緯

とともに実物を紹介することができた。資料調査と借用、展示で実物の銅矛を持った際の感覚は忘れることのない「ずっしり」とした重さであった。弥生時代の人々も祭器としての銅矛をこのように両手で支えて持ったのだと思う。

テーマ展では、歴史展示室1で複製資料を常設展示している5点の実物資料を借用し、展示している。実物を持つ資料の存在感を見学していただければ幸いです。

(専門学芸員・富田尚夫)

〈随時掲載します〉